

私達を取り巻く環境は日々変化しています。最近の環境問題や、環境に関する事柄について「知ってほしい・知らせたい」情報などをこのコーナーで伝えていきます。今回は、「第6次エネルギー基本計画」「多発する山火事」の問題です。

◆第6次エネルギー基本計画(案)

先の総裁選で決選投票の末、岸田氏が勝利し新内閣が発足しました。しかし時をおかず、10月14日衆議院を解散し19日に公示、31日投開票というニュースに、何とも慌しいと思われた方も多いのではないのでしょうか。この会報誌が皆さんのお手元に届いているころには選挙結果も出ていることでしょう。

ところで「なぜ冒頭からこんなことを」と思われたかもしれませんが、選挙結果で日本のエネルギー政策も大きく違ってくるのではと思うからです。

今年9月第6次となる「エネルギー基本計画(案)」が出されました。そこには2050年を見据えた2030年に向けた政策対応として「2030年度の新たな削減目標の実現を目指すに際して、原子力については安全を最優先にし、再生可能エネルギーの拡大を図る中で、可能な限り原発依存度を低減する」と書かれています。しかし電力構成比を見ると、原発が20~22% (現在は稼働していないものがあるため6%) 再エネが36~38%とあり、原発に関してのこの数字は、原発の新設や老朽化している既存施設の再稼働なくしては実現できない数字で、明らかに脱原発&世界の潮流に逆行しているものと言えます。また再エネについては数値達成のための具体的な道筋もまだ確立されていません。選挙結果が、脱原発、再生可能エネルギーの拡大を後押しするものになってほしいものです。

◆多発する山火事

今年8月、イタリア南、地中海のシチリア島でヨーロッパ観測史上最高気温48.8℃を記録したとのニュースに驚いた方も多かったのではないのでしょうか。地中海沿岸部のトルコやギリシャやイタリアでも猛烈な暑さに加え空気の乾燥も重なり山火事が多発しています。山火事は火の不始末など人為的要因で起こる人的災害である一方、枯葉の摩擦や落雷などの自然的要因で起こる自然災害でもあります。地中海沿岸部やオーストラリアで起きている大規模な山火事は、まさに気候変動による自然災害と言えます。山火事はCO2を大量に排出するため、温暖化がさらに進行するという事態を引き起こしているのです。

特に最近の大規模な山火事は落雷が原因であることも多く、温暖化が進むと落雷の発生率が高くなります。他の地域よりも温暖化の進行が速い北極圏(北緯65度以上)では、2020年の落雷発生回数は2010年の8倍以上との報告もあります。

臨界点に至る前に、1日も早いカーボンニュートラルを実現させなければなりません。